

JR 西日本福知山線脱線事故から 20 年！



JR西日本福知山線脱線事故は、2005年4月25日9時18分に福知山線、塚口駅～尼崎駅間で発生した列車脱線事故です。事故の直接的な原因は制限速度を大幅に超えた速度でカーブに進入したことです。この事故では、運転士を含む107名が犠牲になりました。当時、JR西日本ではミスをした社員に対して懲罰的な日勤教育が行われており、この懲罰的な日勤教育は、航空・鉄道事故調査委員会の報告でも事故の背後要因として書かれています。事故が発生した平成17年度の大阪支社長方針は、『基本』、『実行』、『鍛錬』、そして『成果』へのこだわり ～質、量ともに会社の中核を担い、かつ地域社会から高い信頼と評価を得られる人材集団～ **1. 稼ぐ** 2. 目指す 3. 守る 4. 変える 5. 光をあてる、士気を高める」でした。安全よりも、稼ぐことが優先されている方針でした。

JR東日本においても、様々な施策や挨拶、訓示等において「**稼ぐ**」や「**利益**」という言葉が協調されています。そして、現場においては前代未聞の新幹線列車分離が発生し、原因究明もされないまま暫定対策での列車の運行が続けられています。また、JR東日本の職場でも「懲罰的な日勤教育」が行われ、休職に追い込まれて 2 年以上復職出来ない仲間もいるのが現実であり、職場では「福知山脱線事故前夜である」との声も上がっています。現在、安全問題に限らずに、職場では官僚的で働く人を大切にしない会社経営姿勢が現れています。福知山線脱線事故のような悲惨な事故を起こさないために、事故を風化させることなく「安全」「健康」を守っていくために職場から議論をつくり組織強化・拡大に繋げていきましょう。

若手の皆さん！現在の会社経営姿勢を許せますか！？
東労組に結集し、安全で働きがいある会社をつくろう！

